

用語解説

索引	用語	解説
A	AI	「Artificial Intelligence」の略で、人工知能のこと。 人間の思考プロセスと同じような形で動作するプログラム、あるいは人間が知的と感じる情報処理・技術のこと。
B	BPR	「Business Process Re-engineering」の略。 既存の業務プロセスを一から見直すことにより、業務の効率化や市民負担の軽減などの抜本的な見直しを行うこと。
D	DX	「Digital Transformation」の略で「デジタルによる変革」を表す言葉。デジタル技術によって、人々の生活をよりよいものに変革すること。
G	GビズID	デジタル庁所管の法人・個人事業主向け共通認証システムのこと。 一つのID・パスワードで、様々な行政サービスにログイン可能となる。
I	ICT	「Information and Communication Technology」の略。 「情報通信技術」と訳され、ITの「情報技術」に加えて情報の伝達「コミュニケーション」を含めた言葉。
I	IoT	「Internet of Things」の略で「モノのインターネット」と呼ばれる。自動車、家電、ロボット、施設などあらゆるモノがインターネットにつながり、情報のやり取りをすることで、モノのデータ化やそれに基づく自動化等が進展し、新たな付加価値を生み出す。
R	RPA	「Robotic Process Automation」の略。 これまで人間が行ってきた定型的なパソコン操作をソフトウェアのロボットにより自動化するもの。

索引	用語	解説
ア	アジャイル	システムやソフトウェア開発におけるプロジェクト開発手法の一つであり、小単位に実装とテストを繰り返し、開発を進める手法。
オ	オープンデータ	国、地方公共団体及び事業者が保有する官民データのうち、誰もがインターネット等を通じて容易に利用（加工、編集、再配布等）できるよう、二次利用可能なルールかつ機械判読に適した形式で開放したもの
キ	キャッシュレス決済	お札や小銭などの現金を使用せずにお金を払うこと。 クレジットカード、電子マネー、スマートフォンやインターネットを使った支払いなどがこれにあたる。
ク	クラウド	データやアプリケーション等が、ネットワーク上にあるサーバー群（クラウド（雲））にあり、「どこからでも、必要な時に、必要な機能だけ」利用することができるコンピュータ・ネットワークの利用形態のこと。
サ	サービスデザイン思考	サービスを利用する際の利用者の一連の行動に着目し、サービス全体を設計する考え方のこと。対象となる「利用者」とは、市民や事業者だけでなく、地方公共団体の職員等も含む。
セ	セグメント配信	受信者が多くの情報の中から必要な情報を取得しやすくするよう、情報を年齢・性別、居住地などの属性ごとに分類して配信すること。
チ	チャットボット	「チャット」と「ボット」を組み合わせた言葉で、人工知能を活用した「自動会話プログラム」のこと。